

箱根湯本散策コース

箱根ジオパーク ガイド 5

日本
ジオパーク
認定



湯本周辺の大地の生き立ちの謎を探りながら、
歴史と温泉について知る





箱根ジオパークとは

Hakone Geopark

ジオパークとは地球活動の遺産を主な見どころとする自然の中の公園です。ユネスコの支援により設立された世界ジオパークネットワークにより、世界各国で推進されています。

箱根火山は、世界的に見てもたいへん有名な火山です。豊かな自然と密接した歴史があることから、まさにジオパークに相応しい地域と言えます。

この地域は、伊豆・小笠原弧が本州弧に衝突したプレートの境界域に位置することと、その中心である箱根火山が、南北にのびる天然の障壁をなしていることです。箱根火山は、その北に連なる足柄山地・丹沢山地をはじめとする*フォッサマグナ地域と、その南に連なる伊豆半島から伊豆・小笠原諸島の自然をつなぐみちに位置します。

北と南をつなぐ自然のみち



東と西をつなぐ歴史のみち



日本の歴史を形作ってきた足柄道や東海道は、東西を結ぶ大動脈です。そして、戦国時代の小田原城や石垣山一夜城、中世から始まり江戸時代に隆盛を迎えた石材採掘、江戸時代の箱根関所跡などは、かつてあった東西の摩擦や緊張を今に伝えています。まさに本地域は、古代からの日本の東と西の文化をつなぐ歴史のみちに位置するのです。

*日本の主要な地溝帯の一つで、地質学においては東北日本と西南日本の境目となる地帯。

箱根ジオパークを歩こう

箱根湯本散策コース

- 3 … コース案内
- 4 … 箱根火山の自然と歴史のあゆみ
- 6 … コースマップ
- 8 … 歴史的背景／箱根町立郷土資料館／早雲寺
- 9 … 正眼寺／一里塚跡
- 10 … 信濃邸の火砕流堆積物／箱根旧街道石畳／玉簾の瀧
- 11 … 箱根湯本温泉／福住旅館外壁／熊野神社
- 12 … 横穴式源泉跡／函嶺洞門／千歳橋／白石地藏
- 13 … 早川泥流堆積物／湯本まめ知識
- 14 … 箱根一口メモ
- 15 … ガイド情報

ぶらっと箱根ジオパーク



コース案内

箱根湯本温泉は、箱根で一番大きい温泉街です。箱根山中を流れる早川、須雲川の合流地点であり、古くから湯場と呼ばれていたところから湧出する温泉を源泉とした温泉場です。奈良時代の開湯と伝えられ、古い歴史を持っています。中世に箱根越えの湯坂路が開かれると、沿道にある湯本は、人々に知られるところとなりました。江戸時代に、五街道の一つ東海道が整備されると、街道に近い湯本温泉にも多くの旅人が立ち寄り、たいへん繁栄しました。このコースは、箱根湯本周辺の大地の生い立ちの謎を探りながら、この地の歴史と温泉について知ることができるコースです。

箱根火山の自然と歴史のあゆみ



南郷山からのパノラマ



矢倉岳



三ツ石海岸

400 万年前頃	40 〜35 万年前頃	35 〜27 万年前頃	27 〜23 万年前頃	23 〜13 万年前頃	13 〜8 万年前頃	6.6 万年前頃	6 万年前頃	4 万年前頃	5500 年前頃	3000 年前頃	2900 年前頃	2000 年前頃	670 年(天智8年)	757 年(天平宝字元年)	783 年(延暦2年)	889 年(寛平元年)	1180 年(治承4年)	1300 年(正安2年)	1417 年(応永24年)	1504 年(永正元年)頃	1496 年(明応5年)〜	1590 年(天正18年)
-------------	-------------------	-------------------	-------------------	-------------------	------------------	-------------	-----------	-----------	-------------	-------------	-------------	-------------	----------------	------------------	----------------	----------------	-----------------	-----------------	------------------	------------------	------------------	------------------

大久保忠世、小田原城主となる 小田原城改修
豊臣秀吉、小田原攻め 石垣山一夜城築城

北条早雲、小田原攻め 小田原城を支配下に置く

大森氏が小田原周辺を領地とする

精進池畔の磨崖仏・六道地藏の開眼供養

源頼朝、石橋山の合戦で敗れる

貴船神社(当時は貴宮大明神)創建

万葉集編纂、巻14の東歌に湯河原温泉の歌が掲載

箱根神社創建

五所神社創建

神山水蒸気爆発

箱根火山最後の大規模噴火、冠ヶ岳の形成

神山山体崩壊、芦ノ湖誕生

羽根尾貝塚の形成

後期中央火口丘の形成と仙石原湖誕生

先神山せんかみやまの形成(神山のもとになった山)

東京軽石をもたらした爆発的噴火

鷹巣山溶岩、屏風山溶岩などの前期中央火口丘の形成

カルデラと外輪山の形成、大規模噴火と真鶴溶岩、幕山溶岩などの噴出

明神ヶ岳、米神溶岩などの箱根成層火山群、独立単成火山群の形成

金時山、明星ヶ岳などの箱根成層火山群の形成

箱根火山の活動のはじまり(天昭山溶岩、畑宿溶岩など)



夕日の滝



大涌谷の噴気



湯河原火山噴出物がつくる不動滝



千条の滝



番場浦海岸の採石跡



箱根関所

- 1600年初頭
- 1619年(元和5年)
- 1680年(延宝8年)
- 1802年(享和2年)
- 1868年(明治元年)
- 1883年(明治16年)
- 1887年(明治20年)
- 1888年(明治21年)
- 1896年(明治29年)
- 1900年(明治33年)
- 1901年(明治34年)
- 1904年(明治37年)
- 1923年(大正12年)
- 1930年(昭和5年)
- 1934年(昭和9年)
- 1950年代
- 1952年(昭和27年)
- 2012年(平成24年)
- 2014年(平成26年)
- 2015年(平成27年)
- 2016年(平成28年)

南足柄市が箱根ジオパークに編入
 大涌谷で小規模な水蒸気噴火
 箱根ジオミュージアム開館
 箱根ジオパーク誕生
 湯河原沸石命名
 県天然記念物1979年指定
 ウメボシインギンチャク・サンゴインギンチャク
 丹那トンネル開通で東海道線湯河原へ
 北伊豆地震 箱根離宮全壊
 関東大震災
 宮ノ下〜芦之湯〜箱根町間 車道開通
 滝廉太郎「箱根の山」(原題箱根八里) を作曲発表
 国府津〜箱根湯本間に電車開通(小田原電気鉄道)
 早川〜熱海間に人車鉄道開通
 国府津〜箱根湯本間に馬車鉄道開通
 新橋〜国府津間鉄道開通
 ドイツ人医師ベルツ、大涌谷に温泉治療所の建設を提案
 塔之沢〜宮ノ下間車道開通
 小涌谷温泉誕生
 貴船大明神から貴船神社に改称
 荻窪用水完成
 東海道「箱根八里」に石畳が敷かれる
 箱根関所開設
 早川石丁場群で採石



早川石丁場群

は、このガイドパンフのコースで見ることができます。



小田原城



飛龍の滝



須雲川の平行岩脈群



箱根ジオパークを歩こう

箱根湯本散策コース

 箱根ジオパーク ジオサイト



 塔之沢
Tonosawa

阿弥陀寺 卍

横穴

●箱根湯寮

塔ノ沢駅

千歳橋 13

12 函嶺洞門

湯坂城跡 凸

熊野神社 10

 福住旅

玉簾神社 卍 ●天成園

 玉簾の瀧 7

湯場滝

4 一里

福寿院

(箱根観音) 卍

信濃邸の
火砕流堆積物

箱根旧街道
石畳

須雲川

奥湯本入口

奥の茶屋

湯本茶屋

須雲川C

Scale (km)



石畳



H12 玉簾の瀧

石畳

732

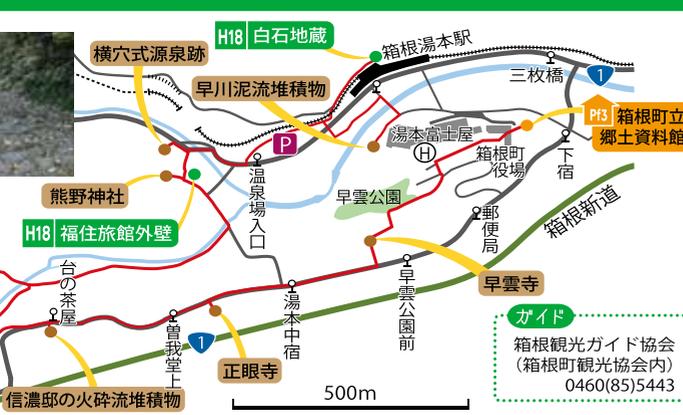
避難(収容)施設指定一覧表

名称	収容可能数
1 湯本小学校	200人
2 湯本地域スポーツ施設	200人
3 湯本幼児学園	35人
4 旧箱根観光物産館	40人
5 湯本仲町集会所	30人
6 山崎集会所	50人

平成30年1月1日現在

EV(電気自動車)充電設備設置箇所一覧

名称	設備内容	電話番号
EV1 箱根町役場	急速充電器 1台	85-7111
EV2 南風荘	急速充電器 2台	85-5505
EV3 天成園	急速充電器 1台	83-8500



◎箱根湯本散策コース

所要時間 2 ~ 3 時間(短縮可)

湯本周辺の大地の生い立ちの謎を探りながら、この地の歴史と温泉について知ることができるコースです。

- 箱根町立郷土資料館
- 早雲寺
- 正眼寺
- 信濃邸の火砕流堆積物
- 石畳
- 玉簾の瀧
- 湯本温泉
- 福住旅館外壁
- 熊野神社
- 横穴式源泉跡
- 白石地藏
- 早川泥流堆積物

ガイド
箱根観光ガイド協会
(箱根町観光協会内)
0460(85)5443

1

— 歴史的背景 —

箱根温泉の玄関口

箱根湯本は、箱根十七湯の中で最も古い歴史を持ち、伝承では奈良時代、天平10年(738)の開湯とされています。中世に箱根越えの道である「湯坂路」が開かれると、沿道に位置する湯本は湯治場や宿場として人々に利用され、知られるところとなりました。江戸時代には、五街道のひとつである東海道に近いこともあり、湯治客や街道を行く旅人でたいへん賑わいました。早川と須雲川の合流地である湯坂山麓の湯場から須雲川沿いにかけて温泉街が広がり、早雲寺・正眼寺・白石地藏・玉簾の瀧、旧街道一里塚など多くの名所旧跡も残っています。

現在でも源泉数、宿泊施設数なども多く、また交通の要衝地で箱根温泉の中心的存在です。

— ハイキングの出发点 —



箱根町立郷土資料館



1

箱根町立郷土資料館



湯治場として知られた箱根が、江戸時代頃を境に現在の温泉観光地へと移り変わっていく様子を、温泉開発などを絡めて紹介しています。

開館時間：9：00～16：30（最終入館 16：00）

休館日：毎週水曜日・毎月最終月曜日

12月28日～1月4日

入館料：一般 300円 小・中学生 150円

2

早雲寺



臨済宗の寺院で、小田原北条氏の菩提寺として、大永元年(1521)2代目の氏綱によって建てられた

解説にあるマークの見方



案内板



ビューポイント



食事



お手洗い

もので、北条氏の庇護のもと大いに発展しました。

小田原北条氏は早雲から5代にわたり関東各地にその勢力をふるいましたが、天正18年(1590)に豊臣秀吉により北条氏が滅ぼされると早雲寺も灰燼に帰しました。

現在の早雲寺は、江戸時代に再建されたもので、境内には北条五代の供養塔があります。

小田原北条5代 そうん早雲—うじつな氏綱—うじやす氏康—うじまさ氏政—うじなお氏直



早雲寺

3 しょうげん じ 正眼寺

地藏信仰と深いつながりのある臨済宗大徳寺派のお寺です。歴史も古く、中世からこの辺りにあった放光地藏を祀る地藏堂の別当寺だったようです。箱根の入口に位置する地藏堂には、旅人が箱根越えの旅の安全をここで祈ったと伝えられています。

歌舞伎の仇討ち物で有名な曾我兄弟ともゆかりのお寺で、境内には大正3年に建てられ、「曾我兄弟化粧の像」と呼ばれる中世作の地藏菩薩像2軀がまつ祀られる曾我堂や、兄弟が仇討のために腕を鍛えたとされる槍突石などがあります。



正眼寺

4 一里塚跡

慶長9年(1604)江戸幕府が大久保長安に命じてつくらせた旧東海道一里塚。日本橋から22番目にあたりました。このあたりは湯本茶屋の中心であったようです。



一里塚跡

5 信濃邸の火砕流堆積物

平成2年に発見されたもので、約1万8000年前に発生した二子山（下二子山）の噴火による火砕流により、この付近にあった樹木が蒸し焼きにされ、炭化したものです。炭化した木は直径30cmもあります。この発見により箱根山の火山活動の一端が明らかとなりました。



信濃邸の火砕流堆積物

6 箱根旧街道石畳



江戸時代、東海道を旅する人々にとって難所の一つが「箱根八里」の山越えでした。当初、土道だった山道は、「ハコネダケ」が敷かれて利用されていましたが、その後、江戸幕府によって延宝8年（1680）に雨が降っても崩れないように石畳が敷かれました。湯本地区に残っているのは、255mの猿沢の石畳です。



箱根旧街道石畳

7 たまだれ 玉簾の瀧

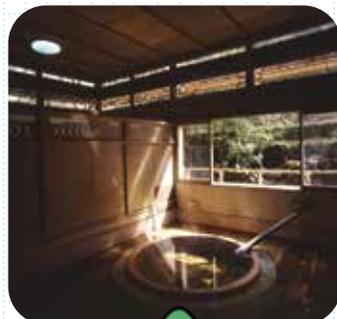
箱根湯本温泉の天成園の敷地内にある高さ約8m・幅約11mの滝です。水を通しにくい箱根火山ができる前の古い地層（須雲川安山岩類）の上に、水を通しやすい箱根火山の前期中央火口丘の溶岩が重なっていて、2つの地層の間から流れ出た水が滝となっています。流れ落ちる清水が「たまだれ」のように細かく美しいことからこの名で呼ばれるようになりました。



玉簾の瀧

8 箱根湯本温泉

箱根湯本温泉は、箱根の中で最も古い温泉場です。奈良時代の天平10年(738)に開湯されたと伝えられています。湯本の湯場は湯本温泉発祥の地と言われ、熊野神社がまつられています。箱根の玄関口として交通の便が大変よく、箱根温泉の中心的存在です。



9 福住旅館外壁



箱根湯本周辺には、箱根火山ができるはるか前の約400万年前に海でできた地層(早川凝灰角礫岩)が現れています。この地層を作っている物質は火山噴出物に富み、場所によっては大量に含まれているため、全般的に白く、柔らかく、加工しやすいのが特徴です。福住旅館の外壁は、早川凝灰角礫岩の軽石に富む部分が使われています。



福住旅館外壁

10 熊野神社



湯本温泉の神様として祀られています。紀伊半島にある熊野地方は、湯の峰温泉もあり、温泉ともゆかりの深い信仰の地です。おそらく、中世以降の熊野信仰の広がりとともに、箱根各温泉場では熊野神社を「湯の神」として祀るようになったのでしょう。

熊野神社へ向かう階段入口にある源泉は、奈良時代に浄定坊じょうじやうぼうによって発見されたと伝わる最も古い源泉です。そこには「湯本温泉発祥之地」の碑があり、古くから湯本温泉の中心地でした。



熊野神社



横穴式源泉跡



函嶺洞門

現在は通行することはできません



千歳橋



白石地蔵

11 横穴式源泉跡

湯本温泉の源泉は、長いこと熊野神社前にある源泉ただひとつでしたが、明治時代中ごろから新たな源泉開発が始まりました。その最初に行われたのが湯坂山麓の早川凝灰角礫岩の崖を横に掘削するもので、この横穴式源泉跡はその名残りととどめています。

12 かんれいどうもん 函嶺洞門

急峻な崖に沿う国道1号を山崩れから守るため、昭和6年12月に造られた洞門です。約100mにわたり早川側に列柱が並ぶ個性的なデザインが特徴で、千歳橋・旭橋と共に国重要文化財に指定されました。2014年には函嶺洞門バイパスが開通し、湯本側から函嶺もみじ橋で早川を渡り、函嶺さくら橋で元の国道に戻るようになっています。

13 千歳橋

昭和5年(1930)6月に竣工した、国道1号の早川に架かる橋です。同じ早川に架かる旭橋(昭和8年竣工)と共に、鉄筋コンクリート造タイドアーチ式橋としては我が国早期の貴重な遺構であることから、この千歳橋、旭橋の両橋は、平成27年に「国道一号箱根湯本道路施設」として、国重要文化財に指定されました。

14 しらいし 白石地蔵

白石地蔵は早川凝灰角礫岩を彫って作られた磨崖仏です。近くには昔、石切り場がありそこから採取された岩石は福住旅館の外壁に用いられています。中世の箱根山は、険しい山々と各所に見え

る噴煙から地獄と見なされ、地蔵信仰の広がりと共に各所に地蔵菩薩が祀られました。

15 早川泥流堆積物

露頭右上部の大きな円礫が中央火口丘（後期中央火口丘）起源の土石流堆積物（早川泥流堆積物）です。その下が早川凝灰角礫岩（約400万年前）です。早川凝灰角礫岩は箱根火山の土台をなす地層です。

湯本まめ知識

・小田原馬車鉄道・電気鉄道湯本駅跡

明治21年（1888）年、東海道線国府津駅と湯本間に、日本で3番目の馬車鉄道が開通しました。当時の湯本駅は、現在の「温泉場入口」バス停に近い所にありました。馬車鉄道は明治33年に電化されました。今日の箱根登山鉄道の前身です。

・湯本見番^{けんぼん}

湯本の芸能組合の事務所で、芸妓が踊りなどの稽古もしています。

箱根では、明治30年代にはすでに塔之沢に芸者衆がおり、次第に各地へ広がっていきました。湯本では、現在では芸妓が所属する「置屋」が約30軒ほどあり、約130名の芸妓が仕事をしています。

・水力発電

明治25年（1892）、現在の「吉池旅館」のあたりに、須雲川の水を引いて、水力発電所が開業しました。関東地方では初めて、日本では京都^{けいあけ}蹴上発電所につぐ2番目のものでした。ここで発電した電力は、湯本や塔之沢の旅館などに供給されました。



早川泥流堆積物



小田原馬車鉄道・電気鉄道湯本駅跡



湯本見番



水力発電

箱根一口メモ

箱根八里と宿場

「箱根八里は馬でも越すが…」と唄われた箱根八里は、小田原宿から箱根関所・箱根宿を経て静岡県三島宿までの約八里(約32km)を指し、東海道屈指の難所とされました。この間に小田原宿を出て、風祭・湯本茶屋・畑宿・霞原久保の一里塚を過ぎると江戸から10番目の宿場である箱根宿に着きます。さらに、山中新田・笹原・塚原の一里塚を通って三島宿に至ります。



畑宿一里塚

箱根旧街道の石畳と杉並木

江戸時代、東海道を旅する人々にとって難所の一つが「箱根八里」の山越えでした。当初、土道だった山道は、竹道の時代を経て雨が降っても崩れないように石畳が敷かれました。

現在も湯本茶屋や畑宿、芦ノ湖周辺などに石畳が残されていて、江戸時代の人々の気持ちで箱根を楽しむことができます。また、芦ノ湖東南岸の旧東海道に沿って残る杉並木は、江戸時代前期に松並木に代わって植えられたようです。最大のものは、樹高38mもあります。現在は樹齢370年ほどの杉並木約400本が観光客を迎えてくれます。石畳や杉並木は、「箱根旧街道」として国の史跡に指定されています。



箱根細工

箱根に伝わる木工^{ざいく}を総称して箱根細工と呼びます。挽物細工^{ひきもの}や寄木細工^{よせぎ}、象嵌細工^{ぞうかん}があり、これらの技術が融合した様々な製品が作られています。江戸時代には、箱根の土産物として盛んに作られ温泉場や街道の店先で売られていました。現在では、実用的なものから、工芸品的なものまで多種類のもので制作され、国内はもとより海外にも輸出され、名声を博しています。特に、寄木細工は昭和59年5月に国の伝統的工芸品に指定されています。





※祭、イベントの開催は、変更される場合があります。

迫る箱根の自然と時空を超えて伝えられる存在感



箱根関所

開館時間 9:00～17:00
(12月～2月は16:30まで)
※入館は閉館30分前まで
観覧料金 大人 500円
小人 250円

足柄下郡箱根町箱根1 電話 0460-83-6635
<http://www.hakonesekisyo.jp/>

自然のすばらしさ、森林の大切さを楽しみながら学ぶ



森のふれあい館

開館時間 9:00～17:00
(12月～2月は16:30まで)
※入館は閉館30分前まで
観覧料 大人 650円
小人 400円

足柄下郡箱根町箱根381-4 電話 0460-83-6006
<http://www.hakone.or.jp/rifure/index.htm>



ガイドさんと ジオ旅に 行こう!

✓ 箱根の魅力をもっと知っていただくために、

箱根観光ガイド協会のガイドが「楽しく」「わかりやすく」ご案内しております。

ご参加していただく皆様には、土地の人々と「交流したり」「触れたり」「教わったり」「体験」することで、さらに

箱根の魅力を感じていただき箱根の旅の一こまを思い出深いものにしていただければと思います。



ガイドの様子



箱根観光ガイド協会 (箱根町観光協会内) Tel:0460 (85) 5443

箱根・小田原・真鶴・湯河原・南足柄ガイド

自然公園財団箱根支部 (箱根ボランティア解説員連絡会) Tel:0460 (84) 5720

NPO 法人 小田原ガイド協会 Tel:0465 (22) 8800

真鶴観光ボランティアガイド (真鶴町観光協会内) Tel:0465 (68) 2543

湯河原まちづくりボランティア協会 (湯河原町役場内) Tel:0465 (63) 2111

南足柄ジオガイドの会 (南足柄市役所内) Tel:0465 (73) 8001



- 1月 東京箱根間往復大学駅伝競走 (2・3日)
芦ノ湖湖水開き (5日)
- 2月 箱根神社 節分祭 (3日)
- 3月 芦ノ湖釣り解禁 (上旬)
仙石原湯立獅子舞 (27日)
- 4月 ケンパル・パーニー祭 (中旬)
宮城野諏訪神社例祭 (15日)
- 5月 公時祭 (5日)
箱根路森林浴ウォーク (中旬)
- 6月 九頭龍神社例祭 (13日)
- 7月 宮城野湯立獅子舞
湖水まつり (31日)
- 8月 御神幸祭 (2日)
箱根園サマーナイトフェスタ (2・3日)
太閤ひょうたん祭 (3日)
湖尻龍神祭 (4日)
鳥居焼まつり (5日)
大平台温泉姫まつり (11日)
宮城野木質温泉夏まつり (14・15日)
箱根大文字焼 (16日)
湯本夢夏祭り (下旬)
- 9月 箱根学生音楽祭 (上旬)
仙石原すすきまつり (下旬)
- 10月 芦刈まつり (中旬)
元宮例祭 (駒ヶ岳) (24日)
- 11月 箱根大行列
「箱根の秋」音楽祭 (下旬)

私たちは箱根ジオパークを応援しています！



FUJIYA HOTELS & RESORTS

富士屋ホテル・湯本富士屋ホテル
箱根ホテル・富士屋ホテル仙石ゴルフコース
箱根駅伝ミュージアム
フュージョンドイニングF
富士ビューホテル
フルーツパーク富士屋ホテル
大阪富士屋ホテル



天成一園
～お泊りでも、日帰りでも～
屋上天空大露天風呂
【日帰り入浴】 営業時間 10:00～翌朝9:00
大人 2,730円 夜間別途入湯税50円頂戴致します。
(税込) 夜間夜0時以降は別途1,650円頂戴致します。

【ご宿泊】(1泊2食付/2名1室利用) 夜間別途入湯税150円
頂戴致します。
大人(お1人様) 平日15,500円(税込)～

〒250-0311 神奈川県足柄下郡箱根町湯本682

予約専用:0460-83-8511 <https://www.tenseien.co.jp/>

森の温泉。森のめし。



箱根温泉



「湯葉井」直吉
NAOKICHI



箱根の名水「姫の水」で作る豆乳
おなかにやさしい箱根の味です
旅の途中でお立ち寄りください
湯本696 ☎0460-85-5148

製作 箱根観光ガイド協会

箱根ジオパーク推進協議会 2024

事務局(箱根町企画課 ジオパーク推進室内)

TEL.0460-85-9560 <http://www.hakone-geopark.jp/>

ホームページはこちらから

箱根ジオパーク 検索

